

Project	地域協働専攻 国際協働グループ
04	やさしい日本語と外国語

メンバー	[学 生] 星野 隆秋 / 熊谷 百寧 / 福澤 真那 / 山岡 颯太 / 高橋 快斗 / 細川 泰希 / 鳥倉 靖世 / 高橋 美雨 / ホアン・ディン・クオック・クン [担当教員] 伊藤 美紀
------	---

【背景】

函館の各観光地には案内板が設置されているが、日本語と英語で表記されている場合が多く、専門用語や比較的難易度が高い語彙が使用されている。そのため、全ての人に分かりやすいとは言えない。また、外国人の中には、英語が母語でない人や、英語よりも「やさしい日本語」の方が理解しやすい人もいる。そこで、このプロジェクトでは、函館市内の観光案内板を「やさしい日本語」を用いて、外国人に伝えようと考えた。

【目的】

このプロジェクトでは、函館市内に設置されている観光案内板の「やさしい日本語」版の作成を行うことを目的とする。同時に、本プロジェクトメンバーが難解な日本語を書き換える活動を通し、やさしい日本語への理解を深めること、やさしい日本語ユーザーに必要な教育マインド、複言語主義をはじめとした言語政策に対する知識を身につけることを目的としている。

【概要】

このプロジェクトでは、まず、文献講読を通して「やさしい日本語」への基礎知識について学んだ。その後、函館市内に設置されている観光案内板のやさしい日本語版の作成や作成基準について検討した。書き換えた12件の案内板のやさしい日本語版は、来年度以降の公開を目指している。

【プロセスと成果】

前期は、庵功雄(2016)『やさしい日本語—多文化共生社会へ』の内容を要約し、各メンバーが行った章ごとの発表を通してやさしい日本語に対する理解を深めた。また、はこだて未来大学の奥野拓先生から、やさしい日本語に書き換え終えたものに振り仮名や注釈をつけた状態を事前確認するための、プレビューシステムの使い方を学んだ。

後期は、やさしい日本語で観光案内板を書き換えるため、書き換え基準を作成した(図1)。作成する上で、同じくやさしい日本語で書き換え作業を行っていた高橋圭介先生の地域プロジェクト(本書P22)のメンバーと注釈の統一や書き換えの案について具体的な意見交換を重ね、推敲していった。

さらに、後期は留学生と活動を共にした。活動の中で、書き換え基準は満たしているが、わかりにくいと感じる日本語の指摘を留学生から受けた。日本語を母語にする人が持つ考えに偏ったものではなく、留学生の意見を取り入れることができたことで、より実用的な書き換え案を作成できた。

ここで、本プロジェクトの成果として以下の4点を挙げる。

1. やさしい日本語に関する文献を講読し、やさしい日本語に関する知識や理解を深めることができた。
2. 実際にやさしい日本語への書き換えをしてみて、やさしい日本語への書き換え方、やさしい日本語の必要性、函館の歴史を学んだ。
3. 留学生との書き換え活動を通して、定められている語彙の基準を再検討した。
4. はこだて未来大学の先生や学生との交流を通じて、自分たちが学んだ事を発信する方法の一部を知ることができた。

書き換えが難しい2級以上の語彙があるときは注釈。
外来語はあまり使わない。
語彙は日本語能力試験出題基準語彙表の3, 4級から使う。ただし、2級以上の語が出た場合は「みんなの日本語」初級I・IIの語彙を参考にする。
擬音語、擬態語は避ける
固有名詞は注釈で説明し、「人の名前」「場所の名前」などと分かるようにする ※観光案内板に深く関わるものは詳しく
人名の注釈には役職名を書く。役職名が難しければ、その後ろに () を付け、その中に説明を書く。ただし、人名の後にその人に対する説明が書いてある場合は注釈を省く。カタカナの固有名詞は注釈にて英語または原語で名前を書く。「人の名前」と書いた後に。
情報量は減らさない。
使用する全ての漢字にふりがなを振る

図1 書き換え基準(一部抜粋)

【総括と反省・今後の課題】

本プロジェクトでは、難解な日本語を書き換える活動を通し、やさしい日本語への理解を深めることを目指した。また、函館市内に設置されている観光案内板のやさしい日本語版の作成を行った。学びの成果と課題をまとめた。前期は、文献講読を通して、「やさしい日本語」についての基礎知識を学んだ。「やさしい日本語を用いることは、外国人の『居場所』を作る手助けとなる」「情報を正確に伝えることはコミュニケーションの重要な一部である」といったことを学んだ。

後期は、計12件の書き換えや基準の整理を通して、「日本語母語話者」にとっての「やさしい日本語」と「日本語学習者」にとっての「やさしい日本語」は異なるため、やさしい日本語の書き換え方、やさしい日本語の必要性を知った。

今後も、「安らかに眠る」など複数の語彙からなる句表現や詩などの文学的な文章の書き換えについて、引き続き検討する必要があると考える。

参考文献：庵功雄(2016)『やさしい日本語—多文化共生社会へ—』岩波新書 p.1-168



図2 書き換えたやさしい日本語の一例

【地域からの評価】

連携先である公立はこだて未来大学の奥野拓先生から以下のようなコメントをいただいた。

「一年間の活動おつかれさまでした。

コロナ禍も落ち着きつつあり、日本を訪れる外国人旅行者や留学生が再び増加傾向にあります。そのような状況では、やさしい日本語の取り組みは益々重要になっていきます。

特に、観光客に文化財を解説するために設置された観光案内板をやさしい日本語に書き換える取り組みは、日本有数の歴史観光都市である函館にとって重要な意味を持つ有意義な活動と言えます。

成果発表会での説明から、文化財の解説文には、基準に沿った書き換えが難しい概念が含まれていたり、文学作品が挿入されていたりと、非常に困難な取り組みであることがわかりました。

そのような、「正解がない問題」に取り組んだ経験は、きっとみなさんの将来に役立つことと思います。

今後もこのプロジェクトが継続し、みなさんやみなさんの先輩方が書き換えた説明文が「やさしい日本語版『南北海道の文化財』」で公開され、函館を訪れる外国人に活用されるようになることを期待しています。」

また、未来大4年生の田島さんにはやさしい日本語版データをオンライン上に納品するためのシステムの利用方法について教えていただいた。

連携してくださった皆様に感謝申し上げます。

【年間スケジュール】

■前期

- 4月
 - ・前期のスケジュールリング
- 5月
 - ・やさしい日本語に関する文献講読とワークショップ
 - ・出入国在留管理庁ホームページ「やさしいにほんごガイドライン」のオンデマンド学習
- 6月
 - ・やさしい日本語に関する文献講読
- 7月
 - ・2022年7月1日国際地域研究シンポジウム(参加)
 - ・はこだて未来大学 奥野先生とのミーティング
 - ・中間発表準備、発表

■後期

- 10月
 - ・やさしい日本語に関する文献講読
 - ・書き換え作業
- 11月・12月
 - ・書き換え作業
- 1月
 - ・書き換え作業
 - ・成果発表準備、発表
 - ・はこだて未来大生による書き換えデータの納品方法についてのワークショップ
- 2月
 - ・やさしい日本語版データの指導教員への納品(12件)

